

# この感動を胸に仲間とともに

## 2019年度新入職員 後期オリエンテーション

## 将来、民医連を語る人に

3カ月ぶりの同期の再会だったので、アイスブレイクゲーム「人間知恵の輪」でグループメンバーの緊張をほぐし、楽しく始まりました。大矢亮医師による日常とは違う視点で医療を考える「HPHについて」の講義を受け、自分自身が働き出してから出会った「健康と地域や社会との関係がある」と感じた事例をグループで共有しました。

参加者からは「班で話し合っていていろんな考え方を聞くことで、多

### 1日目 グループで学びあい バーベキューで交流

7月5、6日に、2019年度新入職員後期オリエンテーションを行いました。



参加者全員で



各グループが班会メニューを発表

めくりには、参加者ひとり一人に職場の先輩からの思いがけない応援や期待のメッセージカードが贈られ、笑顔や歓声でいっぱいになりました。この感動を胸に仲間と共に歩んでほしいと思います。

(後期オリエンテーション  
実行委員会  
井上詳子)

くの要因を見出すことができ、職種と連携する大切さがわかった。「困った患者さんだな」と思っている患者さん

「友の会訪問」を参考に、10グループそれぞれがいろいろな視点で工夫した素晴らしいメニューが完成しました。

昼食後はロッジ舞洲に移動し、フォトゲーニング(チームごと



バーベキューで盛り上がりました

### 2日目 先輩職員から 経験と応援の二つば

に制限時間内にはできるだけ多くのチェックポイントを回って得点を獲得するスポーツ)を行いました。過ごしやすくて暑さだったので、みんな楽しくチェックポイントで写真を撮り交流。夕食は班ごとのバーベキューでした。お肉がおいしかった、いろんな悩みも聞いてもらえたなどの感想があり、職場から離れてリフレッシュできたようです。

2日目は総合病院に移動し、大阪民医連事務局次長の地道亮さんより「わたしと民医連」というテーマのお話を聞きました。就職当時の戸惑いや迷い、働いてからのさまざまな経験を通して民医連職員として成長してきたというお話でした。

就職して3カ月の経験しかない新入職員にとっては、まだまだ実感できない話だったようですが、これからの経験を通して、何年後かには自分たちが民医連を語る立場になってほしいと思います。

### シリーズ 現場からの 視点

その49

2011年3月に起こった福島第1原発事故により、東北や関東から多くの方が関西にも避難されています。避難者の方たちには、どこからの補償もなく、大切な貯金を切り崩しながら二重生活されているのが現状です。先の見通しが立たない暮らしの中で大きなストレスを抱え、健康に及ぼす影響が心配されています。

## 避難者の悩みやストレスによりそって

### 8年目を迎えた福島原発事故避難者健診

状態がんへのリスクが高いため、甲状腺エコー検査を毎回実施しています。甲状腺がんの発症については、今回「異常なし」との判定が出て、「来年・再来年も大丈夫」という保障がありません。16回目「避難者健診」となる今年は成人(16歳~53歳)17人、小児(12~15歳)4人の8家族21人が受診されました。

毎回、避難者健診では受診者の日頃のストレスや様々な悩みを直面する場面が多いですが、少しでもそういったストレスを吐き出せる場になるだけでもいいのかなと感じています。

原発事故は長期にわたって、人体にさまざまな影響をもたらすことが考えられます。また、生活や心と与える影響も甚大です。全国の民医連と共に、避難者に寄り添った支援を今後も継続していきます。

(耳原総合病院  
組織健診科  
油野 恵祐)

